

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：31203

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02190

研究課題名（和文）障害児・者施設における給食ガイドラインおよび栄養・食生活支援のための教材開発

研究課題名（英文）Develop guidelines for meal management and educational materials for nutritional and dietary support in facilities for children and individuals with disabilities

研究代表者

秦 希久子（Hata, Kikuko）

盛岡大学・栄養科学部・准教授

研究者番号：60781713

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000 円

研究成果の概要（和文）：障害児・者施設の給食経営ガイドラインの作成および栄養・食生活支援のための教材開発とその効果検証を目的として研究を進めた。障害児・者施設の給食の課題として支援のための情報が限られているため、他施設との情報共有を望む声が多く、定期的に意見交換の場が設けられるような環境づくりが必要であることなど、ガイドライン作成に向けた基礎資料を得ることができた。

教材開発では、視覚障害児向けの音声による食育教材（料理説明のセリフと調理音で構成された音声データ）を作成した。栄養教諭が食育の授業に導入し、教材の導入効果を検証したところ、生徒の興味を惹く教材であることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

障害児・者施設の入所・通所者にとって、食事は楽しみの1つであり、食育の場であると考えられる。彼らの健康やQOLを維持するためにも障害児・者施設での給食の充実や栄養・食生活の支援が重要である。わが国は、障害者に向けて発表された健康づくりのための施策やガイドラインは少なく、科学的根拠に基づいた障害児への食育の取り組みの情報も少ない。障害者施設に向けた給食経営のガイドラインの作成や食育教材を提供することは、健康づくりのための食環境整備の一助となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop guidelines for meal management in facilities for children and individuals with disabilities, create educational materials to guide nutritional and dietary support, and evaluate their effectiveness. One of the challenges was that information regarding meal provision is limited, so regular exchange of opinions with other facilities is necessary. This study provides basic information for the development of such guidelines. In this study, we created audio-based food education materials tailored for visually impaired children (consisting of dialogue explaining cooking processes and sounds). A nutrition teacher introduced this information in a dietary education class and found that it effectively attracted the students' interest.

研究分野：食生活学

キーワード：障害児・者施設 給食経営管理 食育教材 教材開発

1. 研究開始当初の背景

障害者総合支援法の障害福祉サービスでは、食事の提供について「利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し、適切な時間に食事の提供を行うとともに、利用者の年齢及び障害の特性に応じた、適切な栄養量及び内容の食事の提供を行うため、必要な栄養管理を行わなければならない。」と定められており¹⁾、障害児・者施設においても健康・栄養状態に合わせた食事の提供が求められている。

しかし、東北地方の療育施設および福祉施設 120 施設を対象とした給食の実態調査では、利用者の給食の摂食について 70%の施設が心配事ありと回答し、施設職員は給食提供に不安や疑問を抱えながら日常の業務に当たっていることが報告されている²⁾。

施設職員の不安や疑問を解決するためには、まずは障害児・者施設の給食の実態を把握し、給食に関するガイドラインや栄養・食生活支援のための教育教材が必要であることが予想されるが、わが国では障害者施設での給食の実態や課題の報告は限られている。さらに、給食を含む栄養・食生活に対する障害当事者やその家族のニーズも不明である。

2. 研究の目的

障害児・者施設の給食経営管理ガイドライン作成および栄養・食生活支援のための教材開発とその効果検証をすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 障害児・者施設の給食業務の実態把握と課題抽出

1) 障害児・者施設でのインタビュー調査

障害児・者施設の給食の実態が不明であるため、個別にインタビュー調査が必要であると判断し、障害児・者施設の給食に関わる職員および関連機関への調査を実施した。対象者は岩手県内の障害者支援施設（通所および入所）所長および栄養士の各 1 名、岩手県内の保健所の管理栄養士 1 名、青森県内のグループホーム（精神障害 対象）所長および調理従事者の各 1 名であった。質問項目はいずれも「障害児・者施設の給食に関する取り組みおよび施設に通所・入所している障害児・者の栄養・食生活の課題」について尋ねた。

2) 障害児・者施設で働く栄養士・管理栄養士のグループディスカッションによる課題抽出

A 市保健所と盛岡大学の共催で研修会を開催し、参加者バイアスがかからないよう、A 市の障害児・者施設および特別支援学校全て (19 施設) で勤務する栄養士・管理栄養士に対して研修会の周知をした。

参加者 (10 名) を 2 グループに分け、給食業務を実施する上で課題だと考えていること、対象者・対象者家族に必要な食生活指導の内容とそのために必要な教材は何かを付箋に書いてもらい、KJ 法で参加者と一緒に分類した。その後、詳細な分析は研究者間で行った。

(2) 障害児・者施設における栄養・食生活支援のための教材開発

1) 視覚障害児を対象とした、音声による食育教材の開発

(1) で実施したインタビューおよびグループワークにより得られた意見から、障害児・者施設に必要な栄養・食生活支援の教材開発をおこなった。

視覚支援学校の栄養教諭に研究への協力を打診した。学校から承諾が得られたことから、同校の食育の授業に開発した教材を取り入れてもらい、その際の効果を検証することとなった。

開発した教材は、料理説明のセリフと調理音で構成された音声データである。「調理を通じて食への興味・関心が高まる」ことを教材のねらいとした。最初に調理工程を伝えるシナリオを作成し、対象生徒の特性に合うよう、対象校の栄養教諭、担任教諭らと検討を重ね、完成させた。シナリオに基づき、セリフと調理音から成る教材を作成した。シナリオは、最初に調理の流れをおおまかに説明して全体をイメージさせてから実際の調理説明に入る流れとしたほか、対象生徒が興味を持って聴けるよう、音の変化を聴き分ける場面を設定する工夫をした。この教材を食育の授業に導入してもらい、プレテストを実施した。実際には、生徒（2名）自身が所有するiPadのアプリを通じて授業の中で視聴した。教材の導入効果を検証するため、視聴時の生徒の様子を栄養教諭と担任に注意深く観察してもらい、それを研究者が聴き取った。

2) 視覚障害児を対象とした、音声による食育教材の改良

1) で示した食育の授業に導入した視覚障害児向けの音声による食育教材について、研究協力先となる視覚支援学校の栄養教諭、担任らからの課題や意見を反映させ、改良した音声教材を作成した。栄養教諭が食育の授業に導入し、所有するiPadのアプリを通じて生徒に視聴してもらい、教材の導入効果を検証した。生徒の様子を栄養教諭と担任に注意深く観察してもらった。

4. 研究成果

(1) 障害児・者施設の給食業務の実態把握と課題抽出

1) の個別インタビューに協力した対象者すべてが、障害児・者施設において先行研究²⁾同様に給食を提供するにあたり課題があると回答した。障害児・者施設の給食は、栄養士・管理栄養士および調理従事者が手探りで提供しており、他施設との情報共有を求めていることが推察された。

2) の障害児・者施設の給食の課題として管理栄養士・栄養士より出された内容として「障害者の方の給与栄養目標量の設定」「家庭と施設での生活習慣病対策の温度差」「栄養教育の方法」「障害についての知識不足」「障害関係の栄養・食生活の研修会や施設間どうしの交流がない」などが挙げられた。障害児・者給食施設や特別支援学校の栄養士・管理栄養士を対象に、給食提供のためのガイドライン作成のための基礎資料を得ることができた。さらに、障害児・者施設での給食業務に関する情報共有を望む声が多く、課題解決のためのヒントとなる研修会などが定期的に実施されるような環境づくりが必要であることが示された。

(2) 障害児・者施設における栄養・食生活支援のための教材開発

観察結果の聴取において、食育の授業中は、最後まで飽きることなく熱心に聴いていたこと、楽しそうに聴いていたこと、「熱いよ!」「音が変わった!」など積極的な発語がみられたこと、食育後の給食を残さず喫食できたこと、調理時は、食育の授業で聴いた内容を思い出しながら作ることができていたことなどが確認できた。栄養教諭や担任等からは、対象となった生徒に適した画期的な教材である、様々なバージョンが欲しい、家族にも紹介したいなど、高い評価を得られ、視覚に障害を持つ生徒の食育指導において有用である可能性が示

唆された。

様々なバージョンの教材の要望もあることから、今後も視覚障害児・者および他の障害も視野に入れた食育教材の開発が必要である。

1)厚生労働省：障害者総合支援法，

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougai-shahukushi/sougoushien/dl/sougoushien-01.pdf

2) 刑部 月，石川 健太郎，千木良 あき子 他：東北地域における障害児・者施設の給食の実態，日本障害者歯科学会雑誌，36(2) 163-168 (2015)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐藤 ななえ, 秦 希久子, 浅沼 美由希, 武田 千明
2. 発表標題 視覚支援学校の食育における音声教材の開発と観察法による評価
3. 学会等名 第32回日本健康教育学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 秦 希久子, 佐藤 ななえ, 堀内 容子
2. 発表標題 個別インタビューによる障がい児・者施設における給食業務の課題とその対策の実態把握
3. 学会等名 第71回日本栄養改善学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kikuko Hata and Nanae Sato
2. 発表標題 Actual Conditions and Issues Related to Providing Meals at Small Facilities for People with Disabilities in the Tohoku Region in Japan.
3. 学会等名 8th Asian Congress of Dietetics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秦 希久子, 佐藤ななえ, 齊藤聡至, 藤田 誠一
2. 発表標題 障がい児・者施設に従事する管理栄養士が考える給食の困りごとや課題 - グループディスカッションによる質的調査 -
3. 学会等名 第29回日本健康教育学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秦 希久子, 佐藤ななえ, 齊藤聡至, 藤田 誠一
2. 発表標題 障がい児・者施設に従事する管理栄養士・栄養士が必要と考える栄養教育教材
3. 学会等名 第68回日本栄養改善学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秦希久子, 佐藤ななえ, 吉池信男
2. 発表標題 障がい児・者施設における給食の課題
3. 学会等名 第 6 6 回日本栄養改善学会学術総会（平成31年9月5-7日 富山県民会館、富山国際展示場）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	佐藤 ななえ (Sato Nanae) (80594796)	盛岡大学・栄養科学部・教授 (31203)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------